

当時の私はモラハラによる支配と判断力低下のため、不安の中にいました。  
離婚か頭をよぎり、何を聞きたいかも判らず相談を  
受けました。相談時はまだ少しの気持ちの整理ができ、漠然とした不安から  
この先どうすべきかの方向性が見えた気がしました。担当に頂いた弁護士は  
以前、モラハラ側を担当(当事もあたる)聞き、モラハラに理解ある方でした。  
調停では、相手側にまかれそうになつたとき周囲に意見してくれた事も  
ありますし、家裁では相手側とハナ合せなどない様、気配、天下をいました。  
裁判になると今までのモラハラ内容を思い出したり、相手からの作話を苦しまれ  
たりと精神的ダメージは大きいです。それでも裁判官が、夫婦として生活してきた  
期間の退職金分割を示唆してくれた事、和解した時、最後に  
裁判官が、良かったですかと声をかけてくれた事、これらの事を考えると  
モラハラによる苦しみが理解されたと思ふります。

私一人では、相手との対等な話し合いは不可能でした。きっと疲れ果て  
相手の誇導のまゝ、相手の合意合意条件で離婚に至るであろうと  
思います。判断力の欠けた当時の私の話を聞き、整理し導いて  
自分らしく生きれる自由を手に入れる事ができましたのは  
担当して頂いた弁護士、事務所の方々と思ってます。

ありがとうございました。